

【訪問型プログラム】

職員が学校にお伺いし、授業の時間にお話をさせていただくプログラムです。

(1) 動物(犬)が幸せに暮らすために必要なものを考えよう！

ア ねらい

自分と犬の関わりに興味を持ち、犬にも生命があることに気づき、生き物への親しみを持つ。

イ 対象

小学校1学年 4月～7月

ウ 内容

小学校低学年になじみのある「犬」について、犬を飼うために必要なものを考え、絵に描く。

プログラム例(45分授業の場合)

10分	ご挨拶、動物愛護センターの紹介
3分	プリントの配布、作業についての説明
20分	お絵描き、犬を飼うために必要な物を実際に見ながら絵を描く
12分	描いた絵の発表、まとめ



実際に飼育時に使用する道具をみながら絵を描いていきます。



何を、なぜ描いたのかを発表します。お友達の発表を聞くことで、新しい気づきがあります。

(2) せたさん物語

ア ねらい

犬の表情を見て気持ちを考えることで想像力を育てる。また、言葉をしゃべることができない犬の気持ちを考えることで、他者を思いやる心を育むきっかけとする。

イ 対象

小学校1学年 9月～3月、2学年

ウ 内容

犬の写真2枚(動物愛護センター収容時、収容300日後)を見て、それぞれの表情や気づきを発表してもらった後、その犬に起こった物語を聞かせる。2枚の写真に写る犬は同一犬であるが、表情の違いは顕著であることから、その変化をもって犬にも気持ちがあることを考える。

プログラム例(45分授業の場合)

10分	ご挨拶、動物愛護センターの紹介
10分	1枚目の写真を見て、写っている犬の気持ちを考え、発表する
10分	2枚目の写真を見て、写っている犬の気持ちを考え、発表する
10分	2枚の写真に写る犬が同一犬であることを説明 犬に何が起こったのか、その後どうなったのかをお話し(紙芝居)
5分	まとめ、感想の発表



各写真について、気づいたこと、犬の気持ちを考えます。板書はセンター職員で行います。

せたさんのお話は、紙芝居を用いて進行します。



(3) いのちの教育プログラム

奈良県「うだアニマルパーク」における「いのちの教育展開事業・いのちの教育」の教材を用い、平成26年度から、小学校3年生を対象にした動物を使用しない動物愛護教育を出前授業として取り入れました。小学校1年生を対象とした動物愛護教室同様、希望する小学校を訪問し実施しています。

ア ねらい

子供たちの動物を大事に思う心、友達を気遣う優しい気持ちなどの豊かな人間性や社会性を育むため、「いのちの教育プログラム」を実施し、人間だけでなく全ての生き物のいのちの大切さについて考えることで、生命尊重、友愛と平和の情操に資することを目的としています。

イ 対象

小学校3・4年生(その他相談により対応)

ウ 内容

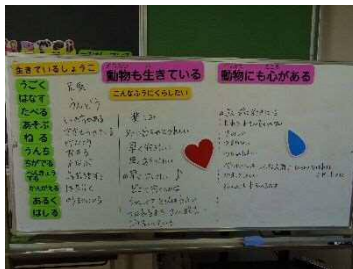
3部構成となっており、合わせて3時限で授業を行います。

① 私たちと動物との関わり(気づき)



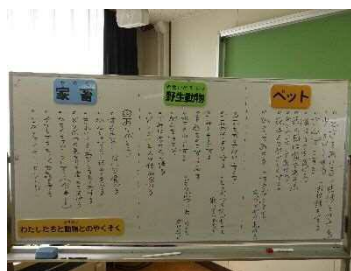
張り子の動物を使い、動物から私たちがもらっているものを考えます。

② 動物たちと私たちのいのちは同じ(共感)



動物のイラストパネルを用いて動物の気持ちについて考えます。

③ 動物のために私たちができること(責任)



動物のイラストパネルを用いて、私たちが動物のために何ができるかを考えます。

(4) 高学年向けプログラム

ア ねらい

全国的には動物の殺処分が行われている事実を知り、不幸な動物に対して出来ることを模索しながら生命を尊重する思いやりの心を育むきっかけとする。

イ 対象

小学校6学年、中学生等

ウ 内容

川崎市動物愛護センターの仕事、川崎市と全国の殺処分頭数について説明をしながら、不幸な動物がいる現実を知る。また、不幸な動物を減らすために何ができるかをグループディスカッションし、班ごとの発表を通して意見を共有する。

プログラム例(50分授業の場合)

8分	ご挨拶、川崎市動物愛護センターの紹介、仕事内容について
12分	殺処分数の推移について(川崎市、全国)
5分	ディスカッションテーマについて説明 用紙の配布等
15分	グループディスカッション
10分	班の発表、まとめ



授業風景

